【授業科目】急性看護学演習Ⅲ（クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ）

Advanced Seminar of Acute Nursing Ⅲ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、野々垣 幹雄	１年次 後　期	選　択	２	４５	演習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	患者が有する全人的な苦痛を緩和、軽減するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果的な判定などについての実践力を養う。 授業は実務家教員（吉田）および実務家医師（ゲスト：野々垣）が進める。 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。授業内のディスカッションにより返していく。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①苦痛を体験している患者の世界を理解する基本とケアの原理が理解できる。 ②さし迫った喪失体験に対する緩和ケアについて理解できる。 ③クリティカルケアの必要な患者に頻度の高い心身の苦痛と緩和ケアについて理解できる。 ④ペインコントロールによる緩和の効果について理解できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	配布資料および紹介する文献は授業以外にも読むことで授業の理解を深める（各60 分） 臨床での体験を授業内容に生かし、学びを深める（各60 分） 自らも文献レビューを行い、課題レポートを作成する（各120 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回 急性期・重症患者・家族の苦痛緩和に対する援助：患者・家族が体験する苦痛の要因と特徴	吉田
	＜苦痛を体験している患者の世界を理解する基本とケアの原理＞	
	第 2 回 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法:身体的苦痛	吉田
	第 3 回 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法:コミュニケーション障害	吉田
	第 4 回 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法:睡眠の障害	吉田
	第 5 回 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法:体温調節の障害（高温・低温）	吉田
	＜さし迫った喪失体験に対する緩和ケア＞	
	第 6・7 回 家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	吉田
	第 8・9 回 家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	吉田
	＜クリティカルケアの必要な患者に頻度の高い心身の苦痛と緩和ケア＞	
	第 10・11 回 呼吸障害患者のための苦痛緩和ケア	吉田
	第 12・13 回 せん妄患者のための苦痛緩和ケア	吉田
	第 14・15 回 可動性障害患者のための苦痛緩和ケア	吉田
	＜ペインコントロールによる緩和の効果＞	
	第 16・17 回 ペインコントロール（鎮痛・鎮静）に対する手術患者のケア	野々垣
	第 18・19 回 ペインコントロール（鎮痛・鎮静）に対する急性心筋梗塞患者のケア	野々垣
	第 20・21 回 ペインコントロール（鎮痛・鎮静）に対する外傷者のケア	吉田
	第 22 回 代替療法の活用による緩和ケア	吉田
	第 23 回 事例検討	吉田

評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 40%		
教科書	特に指定しない。	参考書等	適宜提示